



## プロフィール

作品の名前	いろえきんでんもり ばらもん 色絵金点盛 薔薇文 チョコレートセット	裏側についているマーク
作られた年代	1891年~1921年(今から100~130年くらい前)	
作られた場所	日本	
売っていた場所	アメリカ	

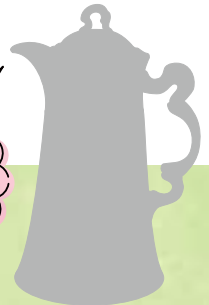
チョコレートセットとはチョコレートドリンク用の器です。  
 チョコレートは昔、飲み物でした。ココアのように少し  
 とろりとしていて、薬として飲まれていたこともありました。

ここで  
Question!  
クエスチョン



q.1 ポットの注ぎ口は、長い?短い?  
 形も観察してみよう。

「注ぎ口」を  
見てみよう!  
 ここは、  
「スパウト」とも  
いうよ。



このセットにかくされたなぞは?  
 うらをみてみよう▶



q.2 バラの花以外に、もうひとつ植物が  
 かいてあるよ。何かな?

## A.1 <sup>みじか</sup>短い

コーヒー用のポットと比べると、チョコレートドリンク用のポットは、<sup>くら</sup>注ぎ口が<sup>みじか</sup>広く、短いです。とろりとした飲み物がスムーズに出るように、このような形にしています。

コーヒー用のポットの注ぎ口

## A.2 竹

青色のリボンのようにも見えますが、「竹」がえがかれています。フシが金色で<sup>ひょうげん</sup>表現されていておしゃれですね。

## 色、形、絵がら どれもはなやかな印象です。

ポットはスカートのように下にいくほど広がり、ハンドル(持ち手)は<sup>きょくせん</sup>曲線を組み合わせた、手のこんだ形をしています。金色の部分には小さな金のつぶがたくさんついていて、ごうかですね。これは「<sup>きんてんもり</sup>金点盛」という技法で、<sup>てさぎょう</sup>ひとつひとつ手作業でつけられました。

きんてんもり  
金点盛



形も絵も  
せんさい  
だね。



## 「ちょっと耳よりエピソード⑥」

## 専属の画付工場

ゆしゆつ <sup>もりむらぐみ</sup> 輸出会社「森村組」は、絵をつける前の陶磁器を瀬戸で買い、<sup>とうきやう</sup> 東京や<sup>なごや</sup> 名古屋、<sup>きやうと</sup> 京都にあった絵をつける工場で絵をえがいてもらい、<sup>ゆしゆつ</sup> 輸出していました。やがて特に絵が上手な工場と、<sup>もりむらぐみ</sup> 森村組だけのものを作ってもらう約束をします。これを「<sup>せんぞく</sup>専属けい約」といいます。こうして森村組のオリジナル製品をつくる「<sup>せんぞく</sup>専属の画付工場」ができました。

※ノリタケでは、昔から「絵」を「画」と書きました。特に、えつけ工場のことを「画工場」と呼び、「画」の文字を長く用いてきたため、<sup>えつけ こうじやう</sup> ここでも「画付工場」としました。それ以外は、わかりやすくするため「絵」を使っています。

「ちょっと耳よりエピソード」は全部で24話あります。すべて集めてならべかえると、ひとつのお話になります。続きはwebでも読むことができます。